

学力調査等の状況
<p>国語:平均正答率は全国より0.2%高く、東京都より0.1%低かった。特に【知識及び技能】の主語・述語、修飾語・被修飾語の関係を捉える問題と【読む能力】の文章の内容を的確に押さえて読み、登場人物の心情を考えて選ぶ問題の正答率が低い。また、資料を読み、文章で記述する問題も正答率が低い。</p> <p>算数:平均正答率は全国平均を1.2%上回り、東京都を0.5%上回った。【知識及び技能】については比較的正答率が高かった。【思考・判断・表現】は正答率が低かった。また、問題形式については、選択式、短答式の問題は比較的よくできていたものの記述式は誤答が多かった。領域については、「図形」「測定」の問題が正答率が高かった。「数と計算」「変化と関係」「データの活用」が低かった。全体:どちらも記述する問題、思考する問題の正答率が低い。</p>

見えてきた課題
<p>国語:主語・述語、修飾語・被修飾語など、文の構造についても理解が乏しい。そのため、必要な文章を筋道を考えて書くことが苦手である。読む能力が低く、叙述に即して登場人物の心情や文章の内容を的確に押さえて読むことも苦手としている。また説明文などの資料を読み取り、問題の答えを導き、その理由を考え、表現する力が低い。</p> <p>算数:数量、図形ともに知識及び技能の基本的な内容や基礎的な計算問題はできている。しかし、「思考・判断・表現」の文章問題、発展問題、応用問題など、既習事項を使って考え、問題を解くことが苦手である。また、それを文章で表すことも苦手である。統計についても弱く、継続的に学習していく必要がある。</p>

授業をデザインする8つの取組について	
見通しをもたせる導入	・単元や一単位時間のめあてを見通した導入を工夫する。
価値ある対話の共有	・友達と話し合ったり、意見を聞いたりする場を設定することで、様々な見方ができるようにする。
ICT機器の活用	・ICT機器を活用し、児童の学ぶ意欲を高める。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	#REF!	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習において日記をつけることで、書く力の向上を図る。また、日常的に習った漢字を使うように指導する。 はじめ、中、おわりの構成を意識させ、順序立てて文を書けるようにしていく。 学習した内容に関連した読み物を紹介したり、読み聞かせを通したりして、読み物に触れる機会を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習において日記をつけることで、書く力の向上を図る。また、日常的に習った漢字を使うように指導する。 自分の考えを書くときには、根拠を明らかにし、自分の意見を相手に分かりやすく伝える文が書けるようにしていく。 学習した内容に関連した読み物を紹介し、様々なジャンルの読み物に触れる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習において日記をつけることで、書く力の向上を図る。また、日常的に習った漢字を使うように指導する。 ディベートなど、自分の考えの根拠を明らかにして話す機会を設ける。 場面の様子、情景や心情を叙述に即して読む力を育成するために、朝読書、学校図書館などを利用し、読書の質を高める。
社会科	#REF!	<ul style="list-style-type: none"> 家族や地域の方々など、身近な人たちとの交流を通して、社会の一員であることに気付かせ、様々なことに興味、関心や疑問を持たせるようにし、調べ方についても指導していく。 自身が見たことややったこと、体験したことなどを、絵や文でどのように表していくのか指導し、まとめる活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識を暗記させるだけでなく、カルタやパズル、クイズなどのゲーム性を持たせて行うことで、知識を意欲的かつ、印象深く覚えさせる。 友達と話し合ったり、意見を聞いたりする場を設定することで、様々な見方ができるようにする。 学習したことや調べたことなどを要約し、まとめる活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフ、写真などの資料を活用し、様々な要因に関連付けて、疑問を持たせたり、推測させたりしながら、問題を解決していく。 友達と話し合ったり、意見を聞いたりする場を設定することで、様々な見方ができるようにする。 学習したことや調べたことなどを要約し、まとめる活動をする。
算数科	#REF!	<ul style="list-style-type: none"> たし算ひき算の場面において絵や文から読み取り、具体物や絵、図などを用いて考えさせる。 繰り上がり繰り下がりのある筆算やかけ算九九を繰り返し練習させ、身に付けさせる。 身近な生活場面から、絵や図を用い、数量をまとめて読み取る活動を行い、目的に応じて、それを表やグラフに表す場面を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数指導で個に応じた指導を行い、児童一人一人の学習意欲や学力の向上を図る。 問題場面を絵や図、数直線などで表し、正しく立式させる。また、ペアなどで自分の考えを説明させ、友達の発言などから様々な考えがあることを知り、説明できるようにさせる。多様な文章問題などを解き、知識・技能を活用する場面を理解させる。 資料の読み取りから、棒グラフや折れ線グラフの関連性及び相違を明確にする場面設定を行い、資料について学習する場面や自分の考えを表現する場面を継続的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数指導で個に応じた指導を行い、児童一人一人の学習意欲や学力の向上を図る。 問題場面を絵や図、数直線、表などで表し、正しく立式させる。また、ペアなどで自分の考えを説明させ、友達の発言などから様々な考えがあることを知り、説明できるようにさせる。多様な文章問題などを解き、知識・技能を活用する場面を理解させる。 資料を読み取り、分析する場面や自分の考えを表現する場面を継続的に設定する。
理科	#REF!		<ul style="list-style-type: none"> 器具や機器の適切な使い方を指導し、使用の際は児童同士で使い方を確認させる。また、問題解決の過程の中で必要な知識・技能について具体的に指導する。 問題解決の過程で考えの交流を図り、自分の考えを振り返ったり、見直したりする活動の充実を図る。また、見方・考え方を働かせている児童の考えを価値付け、全体に広げる。 日常生活や社会との関連を重視し、意図的な導入や活動内容・場などを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 器具や機器の適切な使い方を指導し、使用の際は児童同士で使い方を確認させる。また、問題解決の過程の中で必要な知識・技能について具体的に指導する。 問題解決の過程で考えの交流を図り、自分の考えを振り返ったり、見直したりする活動の充実を図る。また、見方・考え方を働かせている児童の考えを価値付け、全体に広げる。 日常生活や社会との関連を重視し、意図的な導入や活動内容・場などを工夫する。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	#REF!	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を超えての交流を通して、豊かな人間関係の形成を図る態度を養う。また、地域での生活と自然との関わりを調べようとする態度を育てる。 ・オリパラ教育では、様々なスポーツを体験したり調べたりする活動を通して、スポーツへの関心を高め、日本のよさに気がつくことができるようにする。 		
音楽科	#REF!	<ul style="list-style-type: none"> ・拍打ちの活動を適宜取り入れ、簡単なリズムや音の高さの感覚を育てていくようにする。 ・教師や他の児童の範唱や範奏を聴いたり、グループ活動をした中などで試してみようという態度を育てていく。 ・身体活動を適宜取り入れながら、何に気をつけて聴くのかを明確にし、それを表現活動に生かすなど相互に関連させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じを感じ取り、どのように演奏したらいいか意図をもった基礎的技術の向上を目指す。 ・どのような音や音楽にするか、思いを持って活動ができるように、児童同士の音を聴き合いその良さを見つけ、自己の表現に生かしていけるようにする。 ・鑑賞活動で指で旋律をなぞったり、拍打ちをして表現活動を取り入れ集中して聴くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを使用し、学習の見通しや課題を明確にし、達成意欲を持たせる工夫を行う。 ・グループ活動からお互いに教え合う場面をつくる。 ・表現活動で、オーケストラや合唱など他の形態の楽器や歌声の響きを聴いてイメージをもたせて表現の工夫に生かす。
図工科	#REF!	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や材料の扱い方をICTや教科書等を活用し、作品づくりを通して低学年で習得する知識や技能を身に付けさせる。 ・造形あそびや工作など、さまざまな材料や素材とふれあうことで、自分の表したいことを見つけさせる。鑑賞で友達の作品の良さを認め合う指導を行う。 ・ICTや発問の工夫で、主体的に取り組む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の材料の扱い方をICTや教科書等を活用し、作品づくりを通して中学年で習得する知識や技能を身に付けさせる。 ・新しい材料や素材とふれあい、見方考え方を見つけるよう指導する。鑑賞で友達の作品の工夫や良さを認め合う指導を行う。 ・ICTや発問、ワークシートの工夫で意欲を高め、主体的に取り組む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方や材料の扱い方を応用できるよう知識の定着を図り、知識や技能を深めさせる。 ・材料や素材の扱い方を工夫し、自分の見方考え方を深められるよう指導する。鑑賞で友達の作品への工夫、良さを認め合う指導を行う。 ・ICTや発問、ワークシートの工夫で意欲を深め、主体的に取り組む態度を育てる。
家庭科	#REF!			<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者の協力を得て、用具の安全な使い方や技能を習得させる。 ・効率よく活動を行うために、児童自身に計画を立てさせ、見通しをもたせて取り組ませる。 ・学んだことを日常生活に生かすことで、心身共により豊かな生活が送れることに気付かせ、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の向上を図る。
体育科	#REF!	<ul style="list-style-type: none"> ・「あの動きを身に付けたい」という自分の目標とする姿を明確にもたせるために、教員の例示やICTを活用した手本となる動きを見せることで、何事にもチャレンジする気持ちをもたせるよう働きかける。 ・運動が苦手な児童も進んで運動に取り組めるような指導や学習カードの工夫を行い、「できた」という満足感が得られるように見通しがもてる運動を行う。 ・児童が見通しをもてるようにオリエンテーションを工夫しゴールイメージをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域でも学習カードを使用し、課題を明確にし、次時への活動意欲が持続するような工夫をする。 ・練習の仕方や作戦などペアやグループで対話できる時間を確保し、取り組みに対して適切に価値付けをする。児童の実態に応じてゲームの規則を工夫することで、一人一人の運動の機会を保障していく。 ・児童が見通しをもてるようにオリエンテーションを工夫しゴールイメージをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で、主運動につながる補助運動を取り入れる。毎時間、補助運動を取り入れることで児童に獲得させたい動きが自然と身に付くように仕向ける。 ・ゲームをする際、練習の仕方や作戦などグループで話し合う時間を確保し、取り組みに対して価値付けをする。児童の実態に応じて、ルールを工夫したりすることで意欲を向上させる。 ・児童が見通しをもてるようにオリエンテーションを工夫しゴールイメージをもてるようにする。
外国語科	#REF!			<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を通して、児童がやり取りをする場を多く設定し、肯定的なアクションを促し、明るく楽しく、互いに認め合える集団の形成を図る。 ・スピーチの際、クロムブックでスライドを作成し、「伝えたい」「聞きたい」という意欲を高めていく。また、同時にワークシートを活用してスピーチ原稿を作成し、書く能力の向上も図る。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	#REF!		<ul style="list-style-type: none"> ・人や地域と積極的に関わる体験や探究的な学習では、ICTを効果的に活用し、思考力・判断力・表現力を高め、学校や実社会においても課題解決する資質や能力を育てる。 ・学校・家庭・地域における役割や働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味関心の幅の拡充していけるようにする。 ・オリパラ教育では、日本の伝統文化を体験したり調べたりする活動を通してスポーツへの関心を高め、日本のよさに気がつくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人や地域と積極的に関わる体験や探究的な学習では、ICTを効果的に活用し、思考力・判断力・表現力を高め、学校や実社会においても課題解決に应用できる能力を高められるようにする。 ・学校・家庭・地域における自らの役割や働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味関心の幅の拡充していけるようにする。 ・オリパラ教育を通して、スポーツへの関心を高め、諸外国を調べ、学び合う中で国際理解に繋げていく。
特別の教科 道徳	#REF!	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の中で、話し合い活動を取り入れ、自分の考えをもち、それを伝える場面を設けるようにする。 ・授業の際に、必ず自分の生活の中でどのようにしていきたいか考える場面を設けることで、実践的な態度を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業において話し合い活動を行う際に、自分の考えと相手の考えの違いに気付いたり、互いのよさを見つけたりする中で、お互いに認め合えるようにする。 ・授業の終末の自己の振り返りの時間を設け、実践意欲と態度につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の話し合い活動において、他者の多様な考えを知り、異なる考えの中から、そのよさや自分の考えのよさを見つける中で、互いの考えを認められるようにする。 ・授業の終末に、自己の振り返りを行い、自己の生き方に活かすことができるような実践意欲と態度を育てていく。
特別活動	#REF!	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにしたいかについて話し合い、希望や目標をもって生活できるようにする。そして、人との豊かな関わりを通して自ら学び、自分に自信をもつことができるようにする。また、たてわり活動を通して、上学年への親しみやあこがれを抱き、「人と関わることが楽しい」と感じられるようにする。 ・給食の献立は栄養のバランスを考えて作られていることを知り、苦手な食べ物があっても少しずつ食べようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を果たすことの意味や大切さについて考え、学級の一員として当番、係活動を責任もって行えるようにする。また、たてわり活動を通して、上学年への親しみやあこがれを抱き、自分もこうなりたいと目標がもてるようにする。さらに、課題解決の必要性を共有すると共に話し合いの計画を立て、解決に向けて自分の考えがもてるようにする。 ・健康な体をつくるためには、どのように食習慣を改善すればよいかを考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下級生の見本となるよう高学年としての自覚を意識させ、学校行事やクラブ、委員会活動、たてわり活動へのより積極的な参加を促す。そして、リーダーとしての経験を重ねながら自分の役割を果たし、「満足感」や「充実感」を得られるようにする。また、様々な行事や活動への取り組みでの児童相互の関わり合いの経験を通し、お互いを理解し、相手の立場や心情を考えて思いやりの心をもち、協力していけるようにする。
外国語活動	#REF!		<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを活用したクイズ等、ゲーム性のある活動を多く取り入れることで、児童にとって外国語活動が楽しいと感じる時間にしていく。 ・友達同士、英語を使った簡単なやり取りの場を設定していく。その際、やり取りに対する「誉め言葉」や「肯定的なリアクション」を促すことで、互いに認め合う集団の形成を図る。 	